

第2学年2組 国語科学習指導案

2年2組教室 指導者 高嶋 枝里

1 単元 霜月の句会にめざす「選者で賞」

2 単元目標

- (1)句会に向けて、俳句を作ったり、俳句について話したり聞いたりできる。 (関心・意欲・態度)
- (2)俳句を作った人や俳句について話している人の考えを尊重しながら、聞いたり話したりできる。
(話すこと・聞くこと)
- (3)友達にアドバイスしてもらったことから自分の俳句を読み返して、よりよい俳句を書くことができる。 (書くこと)
- (4)俳句の発想や表現の工夫をもとにして、友達の俳句を読みとることができる。 (読むこと)

3 教材と生徒

俳句を作る活動は、本校創立以来34年の伝統になっている。昨年も全校生徒で俳句の応募をして賞をもらったことや、句会で友達から評価してもらったことなどから、生徒は俳句を作る喜びを感じている。また、1年生で句会を知った生徒は、9月の句会の後、俳句を書いた短冊の掲示を見て友達と読み合ったり、次の俳句の応募や句会のことを聞きにきたりして、句会のおもしろさも感じている。しかし、句会で選句するとき発想や表現の工夫に気づかずに俳句を選んでしまう生徒もいて、俳句のよさをまだまだ感じられていないところもある。

生徒は、小学校で俳句を作った経験があるため、俳句を作るように伝えと、ほとんどの生徒が、五・七・五の定型を踏まえて書くことができる。しかし、漢字やひらがな、送り仮名などを書き間違えたり、ありきたりのことを書いたりする生徒もいた。そこで、グループトークを取り入れて推敲する場をもった。グループトークの時間をとると、俳句を作った背景を質問してもらいながら五七五の俳句に仕上げていく生徒や共感できることを見つけて言い合う姿が見られた。しかし、「普通」「いい」などと抽象的な表現で話して終わっていたり、話の流れを踏まえないで言いたいことは言ったりできるが、俳句の発想のよさや表現の工夫について一つずつ自分で考えて話す姿が少なかった。

俳句を作る活動は、言葉の美しさを感じとり理解して使うことによって言語感覚を磨き、国語を尊重する態度をもつことができ、国語科の目標に向かう最適な活動の1つであると考えた。

そこで、このような生徒の様子から、俳句を作る中で言葉を吟味して磨きをかけてさせたい。そのため、取り合わせと吟行などの手法を取り入れる。また、話すこと・聞くことの力をさらに高められるように、句会で俳句の発想や表現の工夫について相手の考えを尊重しながら話したことについての賞として「選者で賞」を新しく設定して表彰する授業を計画した。

まず、俳句の応募があることを知り、9月の句会で表彰があった「二年二組選金賞」「二年二組選銀賞」に加えて新たに「選者で賞」が設定されたことを知り、意欲を高める。俳句の発想や表現の工夫についての話すことと、相手の考えを尊重しながら話すことについてのモデルを見て、話すこと・聞くことのポイントを習得する。そして、「取り合わせ」と「吟行」の手法を習得して、俳句を作る。グループトークで推敲する前に、一人調べとして友達の俳句について考えてアドバイスをメモする。また、全体で推敲の仕方の確認をした後で、グループ推敲を行う。アドバイスの内容を踏まえ、一人で推敲してよりよい俳句に仕上げた後、出句する。句会では、学級全員の俳句を読んで選句する。点盛りの後、特選六句を決定し、特選六句の中から選句して選句用紙に理由を書く。選句用紙のメモをもとに、句会を開き、選んだ俳句の発想や表現の工夫について、相手の考えを踏まえて話し合う。俳句の作品賞として「二年二組選金賞」「二年二組選銀賞」、句会で俳句の発想や表現の工夫について話し、相手の考えを尊重しながら話したことについての賞として「選者で賞」を表彰する。全員の作品を掲示して見合う。また、校外の俳句のコンクールに応募する。

抽出生Aは、思ったことをすぐにみんなに聞こえる大きさの声でつぶやくことができる。しかし、「普通に」と言って理由をはっきりとすることができないなど、話の流れを踏まえていないことが多い。自分の考えを言うことはできるので、推敲のポイントに沿って友達にアドバイスし、友達のアドバイスを聞き自分の俳句を見直して書かせたい。また、相手の立場や考えを踏まえて尊重しながら聞いたり、自分の考えを見直し深めて話したりさせたい。句会・応募を目指して俳句を作る活動をすることで興味・関心を高めて持続させ、推敲の活動をして句会をすることで言葉を選んで使う力を高めたい。

5 本時の指導

(1) 目標

相手の考えを尊重しながら聞いたり話したりすることを通して、自分の選句を見直し、俳句についての発想や表現の工夫について深めることができる。

(2) 授業構想

今日の句会では、俳句の作品賞と、俳句の発想や表現の工夫について相手の考えを尊重しながら話したことについての賞として「選者で賞」を表彰することを全体で確認し、意欲を高める。そして、特選六句から一句選んだ理由についての考えを話し合う場を全体でもち、自分の選句を見直し深める。その後、「選者で賞」を決定し、句会を振り返る。

(3) 準備

- ・ 教師：学習課題を書いた短冊、賞の額、特選六句の短冊
- ・ 生徒：前時に書いた選句用紙、国語辞典、歳時記

(4) 過程 (50分)

学 習 活 動	主な発問と予想される反応	教師の支援と評価※
1 課題をつかむ (5分) ・ 句会への意欲を高める。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 句会の進め方を確認しよう。 ・ 発想や表現の工夫について考えを深めよう。 ・ 相手の考えを尊重ながら、聞いて話そう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 句会の雰囲気近づけて話し合いを活性化させるために、机をコの字型にする。 ・ 本時へ動機づけするために、句会の最後に「選者で賞」を決定することを伝える。
2 課題を追究する (40分) ・ 全体で、特選六句についての考えを話し合う。 ・ 話し合ったことをもとにして特選六句から一句を選ぶ。 ・ 話し合ったことをもとにして「選者で賞」を選ぶ。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> 相手の考えを尊重しながら話し、よりよい選句をしよう </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> 特選六句から一句選んだ理由について話し合い、金賞・銀賞を決めよう </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 1番は、取り合わせが工夫されていてよい。 ・ 2番の俳句は、吟行のしたときの自分だけの感動が俳句になっていてよい。共感できるところがある。 ・ 1番の俳句は取り合わせが工夫されていてよいけれど、3番の取り合わせも工夫されていていい。 ・ 1番をはじめに選んだけれど、みんなの話を聞いて、3番の取り合わせも工夫されていることがわかったから、3番の俳句を選ぶことにした。(抽出生) <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> 「選者で賞」を選ぼう </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ ○○さんの話を聞いて、他の俳句のいいところがわかったから、○○さんを選んだ。 ・ ○○さんは発想や表現の工夫を見つけて相手の考えを尊重しながら話していたから、○○さんを選んだ。(抽出生) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 意見が出にくいときには、前時に書いた選句用紙をもとに話すことを伝えたり、ペアトークの場をもったりする。 ・ 選句用紙の生徒の考えを把握しておいて、話し合いで話題にされていない発想や表現の工夫があるときには、意図的に指名をする。 ・ 最も心に残った俳句を選んで挙手をさせて、金賞・銀賞を決定し、名乗らせる。 ※ 全体で話し合う中で、自分の選句を見直したり深めたりできたか。(発言より) ・ 「選者で賞」の姿を話してから、選んだ人を指し示すように言い、賞を決定する。
3 まとめをする (5分) ・ 句会の振り返りを書く。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> 句会を振り返ろう </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 取り合わせと吟行で楽しく俳句が作れた。 ・ グループ推敲でよりよい俳句ができた。 ・ 「選者で賞」をめざして相手の考えを尊重して聞いたり話したりしてみんなで楽しく句会ができてよかった。 ・ 句会でみんなで話したら、自分と違う視点に気づいて俳句が読めて楽しかった。(抽出生) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 振り返りプリントを配付して、霜月の句会を振り返らせる。 ・ 「選者で賞」をめざして話し合った様子を褒め、次の句作や句会に意欲をもたせる。

(5) 評価

発想や表現の工夫について相手の考えを尊重しながら話し合いを進めて、自分の選句を見直し深めることができたか。

◎ 本時の視点

「選者で賞」を決定することを把握してから一人調べのメモをもって全体で特選六句について話し合いに臨んだことは、発想や表現の工夫について相手の考えを尊重しながら聞いたり話したりするために有効であったか。